

なんと幸いなことでしょう。その力が、あなたにあり、その心の中にシオンへの大路のある人は。彼らは涙の谷を過ぎるときも、そこを泉のわく所とします。初めの雨もまたそこを祝福でおおいます。彼らは、力から力へと進み、シオンにおいて、神の御前に現れます
(詩篇 84 : 5 ~ 7)



ハレルヤ！ あっという間に冬が過ぎ、春の喜びの季節となった気がします。チアにも進学、就職の合格や、残念だった知らせが届き、一緒に喜んだり、悲しみを受け止めて祈ったりしています。

ホームスクーリングのスタートに向けた、教育委員会・学校との面談関連の報告も寄せられます。「大丈夫！でも、しっかりと準備して！」と勧めています。「教育機会確保法」の効果も浸透し始め、とても順調に進んでいます。そんな今春、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

白馬セミナーは、皆さんのお祈りとご参加の中で、神様の恵みと祝福の内に「今回も、とても良かったなー、感謝だなー」との思いの中で、終えることができました。励ましとチャレンジセミナーを開催できたこと、様々な応援をありがとうございました。

長く祈っていただいた父が1月5日に急変し、召天しました。たくさんの皆様から祈りと慰め、励ましをいただきました。御礼を申し上げます。このことを通しても神様からたくさんのことを教えられた思いです。

チア事務局では3月25日に青木誠一氏による「誰でも足が早くなるセミナー」(2月25日から順延。13-15ページをご参照ください)、6月コンベンションの準備を進めています。4月14日に書道・絵画レッスン会も企画させていただきました。オリンピックイヤーでもあり、東京伝道も計画していければと思っています。秋には、チア・オリンピック、白馬セミナーの開催も計画しています。

一步一步、神様の導きと助けの中で歩み、ホームスクーリングの環境整備に力を尽くしていければと思います。皆様へのますますの祝福を心から祈っています。

チア・につぼん代表 稲葉 寛夫

白馬セミナー — 神様のあわれみとホームスクーリングの確かさを再確信

チアの歩みも本年で21年目に向かいます。「山あり・谷あり」。神様の恵みとあわれみと召しの中で、皆さんと歩んでこられたことを、ただただ感謝するのみです。昨年の白馬セミナーでも、その思いを改めて深くしました。

海外の事情に詳しい宣教師の方が言われました。「今年もビッグショット(大物)が来てくれたね」。テッド・トリップ氏ご夫妻という、大きく用いられている講師を含め、大勢の皆さんのご協力で深いチャレンジがなされました。「参加者の声より」で、皆さんの感想をまとめています(39ページ)。ぜひ、読んでいただければと思います。

私は、基調講演で「神様と共に歩むホームスクーリングの恵みとあわれみ・確信と幸せ—20年目の途中経過報告」と題し、「イエス様の導き、聖書の教え」に従って、ホームスクーリングに踏み出して心から良かった、これからも歩んでいけるようにしたい、との思いで話させていただきました。

形よりも本質を

この20年、チアとしても、稲葉ファミリーとしても、その歩みは、失敗もあり、悔い改めや軌道修正もありながらの歩みです。全部解決済ではなく、今も課題克服を目指しながらの項目もあります。一方、誰が見ても奇蹟と思える素晴らしい展開も多くありました。そのすべての上に神様の御手があり、イエス様を喜ばせようと聖霊の力により頼みつつ、努力を重ねて行くときに、神様は大いに祝福してくださることを体験させていただきました。神様はあわれみ深く、いつも共に歩んでくださる方。この戦いは私たちではなく、神様の戦いであり、私たちは恐れずに雄々しく、喜んで歩んでいくこと、聖霊の力を求めて歩んでいくことを何度も示されています。

「強くあれ。雄々しくあれ。主がこの民の先祖たちに与えると誓われた地に、彼らとともに入るのはあなたであり、それを彼らに受け継がせるのもあなたである。主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない」(申命記31:7、8)と

ある通りです。

まだ 20 年目の途中報告ですが、親が子に寄り添い、神を見上げながら歩いていくホームスクーリングの選択は本当に感謝で、やはり神様の尊い祝福があり、深い恵みとあわれみと幸せの中を前進していけると、思わずにはられません。改めて「神様の御手」は確かだなと思います。

A さんファミリーの途中経過レポート

①司法予備試験合格の B 君のケース

白馬セミナーでは、たくさんの再会や、初めての出会いがあり、とても励まされました。今回、A さん家族との交わりも与えられ、その「途中経過レポート」を通して、ホームスクーラー全体に役立つであろうポイントを確認でき、励まされることが多かったので、一つの事例としてお伝えします。

A さん家族は、ホームスクーリングを始めて 16 年目です。長男の B 君（20）は、現在、弁護士を目指して司法試験挑戦中。3 次まである司法予備試験に合格し、もう一つの試験（本試験）だけ受ければ司法試験に合格というところまで進んでいます。先月、東京の私大大学院にも合格、全額奨学金も支給されます。

チアのメンバーで、この 20 年間の司法試験の合格者は 3 人で、B 君が受ければ、4 人目となると思います（ホームスクーリングパパの C さん、D さん、ホームスクーラー 0B の E さん）。

上記の弁護士の先輩同様、B 君の歩みのうれしい点は、「神様の思いを持って、人々を助けたい」「イエス様の福音を伝えていきたい」との思いが明確なことです。母の F さんによれば「高 2 の夏、高認試験の準備に入るまでは、伝道、祖父の介護の手伝い、語学、計算、歴史関係の読書、そして、『ここを育てる聖書』シリーズ等を用いた聖書の学び等、土台作り、人格作りを中心に積み重ねてきました」とのことです。

教科の学習は、高校 2 年生の夏になってから加速したそうです。今は念願だったイエス様を証しする機会が広がっていて、地方の H 国立大学で講師として話す機会や、司法予備校の講師や社長との対談、インターン先の弁護士事務所でも、法曹に導かれた経緯や、ホームスクーリングしてきた理由など、信仰について話す機会が多く与えられています。ご両親との歩み、今回いただいた証しは 27、28 ページに掲載させていただきました。ぜひ、B 君のためにお祈りいただければ幸いです。

② 3 分に 1 回は転ぶ体質から、新体操 A チームへ —G ちゃんのケース—

妹の G ちゃん（9）の歩みからも教えられます。体が強くなかった G ちゃんは、6 年前に始めた新体操を軸に、体力作りにも取り組んでいます。以下、お母さんから当時の様子です。

「小学生になっても、普通に歩いていて、3 分に 1 回は転ぶ（というより、突然倒れる）という生活でした。運動神経も、人並み外れてま



A さんファミリー 左端が B 君

ずく、ランニングでも、1周 30m ほどの教室ですら、いつも1周目で周回遅れ。先生の動きを見ても、一人だけまったく掴めず、全ての動作でみんなにあくびされながら待ってもらっていました。そんな状態でも諦めず、ひたすら真面目に取り組んでいる姿に、周りで見ている人が涙するほどでした。

その時のコーチから、『同じような子を知っているけれど、続けていれば、少しずつでも皆についていけるようになる。みんなより時間はかかるけれど、必ず成長できますよ』と励まされ、今まで続けてきました」

そうしたGちゃんが、去年12月、初めて出た大会で実を結びます。

「大きな大会のため、コーチはトップ選手の指

導に忙しく、娘はほとんど見てもらえない状況でした。振り付けのビデオを渡され、親子での自主練で臨むような形になってしまいました（ちなみに、私は、新体操の経験は全くありません（…；））。

本番中、大きなミスもありましたが、落ち着いて最後まで踊りきる事ができました。娘らしい演技ができた事が、ただ感謝でした。

…が、掲示板の点数を見て驚きました。なんと、小学生の部で3位に入賞し、銅メダルを頂いたのです。技の数は、少なかったにも関わらず、実施点（技の完成度や美しさ）が飛び抜けていたのです。演技中は、まるで雛鳥が神様の翼に乗せてもらっているかのようで、主に信頼する者の幸いを見ました」

今年に入って、GちゃんはAチームのレギュラーに抜擢されました。

大器晩成！ 土台作りの重要性

これまで以下の研究データをお伝えしてきました。「大器晩成！ 土台作りが大事。スタートが遅くても、心配しない」「ホームスクーラーの場合、スタートが遅くても4～6年生から急に勉強・スポーツ、芸術等が伸びる子が多い」

土台がしっかりしていて、良い環境が与えられれば、神様の祝福の中で、時が来ればぐんと伸びるという研究結果です。個人差があるにせよ、こうした結実を生む、ホームスクーラーならではの環境の共通項が、Gちゃんの事例からもいくつか見ることができます。

親が寄り添うこと

まず、親が誰よりも深い愛情と犠牲をもって寄り添っている。その安心感の中で育ち、子どもたちもキリストに忠実に歩もうとする。親の模範と実践の中で、子どもたちに「キリストにあって強く雄々しく歩む姿勢」、そして神様の使命に生きるという強い土台が築かれていきます。「これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも」（申命記6:7）とある通りです。



入賞したGちゃん（9）の実施点（技の完成度や美しさ）の高い演技。

「小学生になっても3分に1回は転び、30m走って周回遅れでした」

強い目的

自分はなぜ弁護士を目指すのか、新体操をするのか、努力するのか、何のために生きるのか——そうした目的を明確にすることを念頭に、Aさんは日々、過ごしてきたことです。人の賞賛を得るためではなく、神様に向かう日々です。チアでは、強い3つの目的として「魂の救い」「キリストの弟子の心を育む」「伝道・世界宣教」を掲げ、歩んできました。

お母さんのFさんは言います。「人ではなく、神様だけを見上げて、与えられた条件の中で、精一杯やりきることができるのが感謝です」

いじめやねたみ等について

スポーツの世界には競争もあり、ねたみもいじめもあるかもしれません。しかし親が関わっていくことで、その対策もできます。この点についてのFさんのコメントです。

「そういう試練に関しても、世と戦わず、主に従うこと（敵を愛し迫害する者のために祈るとか、右の頬を打たれれば左も差し出すとか、主を礼拝し、主にだけ仕えるとか…）によって勝利できるのも、幸いだなと思います。実際、これまでの、そうした経験は、メダル以上にかけがえのない宝となり、次のチャレンジへの礎となっています」

いじめの場合は、まさに犯罪です。暴行や傷害が無い場合でも、名誉棄損・侮辱罪、強要罪ほか、有罪となります。集団で行われた場合、心も体も神様との関係も、ボロボロに深く傷つけられるケースが多く危険です。ですから習い事等に出す場合、任せっきりにせず親が関わり、いじめ等を察知した場合、介入していく必要があります。

そこにもホームスクーリングのメリットがあります。日頃から一緒に時間を過ごし、親子の絆が形成されているため、異変に気付いて情報を聞くことができ、深刻化する前に手を打ちやすいからです。

神様の祝福

上記の良き教育環境、そのすべての上に、神様の恵みと助け、祝福と知恵と導きが注がれていることは言うまでもありません。親が他人任せにせ

ず、責任をもって育てる、聖書が教える教育の原点に立ち返ろう、神様に従って歩もうとする者たちへの恵みです。

そうしたホームスクーリングの恵みは、長い目で見れば実を結んでいくことを、この20年あまりの歩みの中で、日本全国で見させていただきました。

白馬セミナーでAさんファミリーの話を聞きながら、やっぱり聖書が教える教育方法、ホームスクーリングという教育環境は、教育の原点であり、形や掛かる年数の違いはあれど、試練や困難の時期はあれど、本質的には聖書の通りになっていくと再確認した思いでした。

砕かれた心、悔いた心

ホームスクーリングをしたら、悩みがなくなるということではありません。むしろ、多くなる面もあるでしょう。私も含め失敗はあり、親自身が悔いた心で進み、イエスの血潮による完全な赦しのあわれみを深く感謝する歩みです。聖書に「神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません」(詩篇51:17)とある通りです。

「形より、本質」です。神様のあわれみと恵みに感謝しながら、聖霊の力を求めつつ、さらに一步一步、力強く歩む。「強く雄々しくあれ」との御言葉を胸に、そして「主の戦い」との本質を胸に、与えられた子育ての使命を果たしていくことの素晴らしさを再確認する、私にとってはそんな白馬セミナーでした。

クリスマス&正月伝道

今回のクリスマスは、家族が日本で合流することとなり、27年ぶりに日本でのクリスマスを過ごしました。24日と25日の渋谷でのクリスマス路傍伝道と1月3日の明治神宮前のお正月伝道に加われました。とても感謝でした。皆さんの幸せとキリストの祝福を心から祈りました。ホームスクーリングの最終目的である「伝道・世界宣教」に、今年も微力でも前進していければと思いました。

父の予期せぬ召天と励まされたこと

1月5日に父、稲葉克夫が天に召されました。

多くの皆さんに祈っていただき、心から御礼申し上げます。15年あまりの闘病生活で88歳でしたが、予期せぬ急変でした。しかし、励まされる、父の出発でしたのでお分かちします。

チアのブレイン役の一人としても

高校で教壇に立つ傍ら、郷土史の研究にも情熱を注いでいた父の眼差しは、いつも人への愛と感謝に溢れていました。陸羯南（くがかつなん）を始め、地域の先人の生き方を論文に残し、徹底した学究主義で国内外に足を運び、人と会い、文献を探し、執筆に情熱を注ぎました。幼い私は、父の山岳部時代の大きなリュックサックに入って、山奥でのインタビュー等と一緒に連れて行ってもらっていました。

チアのこと、国会での「教育機会確保法案」の時も、私が迷った時には自らの経験と知恵を分かち合い、勇気を与えてくれました。父の探求心と人々に貢献しようとの心は、今も私を励まして

います。父の書庫を「おじいちゃんライブラリー」と呼んで入り浸る孫たちを優しく見つめる様子も鮮やかによみがえります。

形よりも本質を — 葬儀を仏式で行うこととキリストを信じること

父の希望で、お葬式は仏式で行うことが決まっていた。数年前に父は「中学時代からの同級生の住職さんをお願いしたいから、キリストは信じることができない」と私に話しました。それで「仏式でやればいいよ。それとイエス様を信じるかどうかは、次元が違うよ。ぜひ、イエス様を救い主と信じて、天国に行こう。お葬式は、友情を大事に仏式でやればいいから」。その時、父は黙っていました。

仏式から、キリストの希望と励ましへ

今回、御参列いただいた皆さんに、少しでも励ましと希望が与えられる式となれば、父も神様も喜ぶのではないと思いました。お通夜（前夜式）、葬式（召天式）と徹底した仏式で行われました。私

は参列した皆さんの、父や遺族への思いに心に向け、感謝し、喪主挨拶ということで、式の最後に、福音の希望のメッセージを分かち合うことが許されました。

妹の光子が、それぞれ前日の夜中まで掛かって原稿を全部チェックし、その後押しもあって話すことができました。光子は、小学校の教員をしながら、15年間、ずっと両親の介護を続け、寄り添ってきました。

最初のお通夜のテーマは、「使命」。当日まで、地元の新聞社が2回に渡り、父の追悼



1月1日 祖父と話す長女エミリ。この日、将来のビジョンと勇気をもらった。右は妹の光子

記事を集集し、大きく掲載くださったこともあり、たくさんの皆さんが御参列くださいました。

以下、挨拶の抜粋です。

お通夜の御礼の挨拶 ― 使命・生かされている日々

父は「生かされている日々だな」「何か、まだ使命があるから、生かされているんだな」と介護を続けた光子に何度も言っていました。

脳梗塞 2 回、心臓は 3 回、救急車には 10 数回お世話になりました。

父は一度、入院中昏睡状態になり、目覚めた時、「夢で友達の家の前に行き、讃美歌が聞こえるので入れてくださいと言ったら、2 人の門番が来て、まだだめですと帰された」と言っていました。私は「良かったね。まだお父さん、使命があるということだね」と話しました。私は学生時代クリスチャンになりました。

父は「これまで出会った皆さんに、本当にお世話になっている。感謝を忘れてはならない」と言っていました。

11 月 28 日から肺炎で入院しましたが、今回も克服して退院することを家族みんなが信じていました。

12 月 29 日、父は意識がもうろうとしていて、孫たちと会ったことを翌日は覚えていませんでした。

12 月 30 日。父の意識がはっきりとし、アメリカから来た孫たちとの再会を喜びました。母の具合が良くなっていたと孫たちが話すと、とりわけ喜びました。母は結婚当初から病気がちで、父や私たちが家事をすることが多かったですが、父は母を愛し、論文を書けば真っ先に母に感想を聞きました。10 年前に介護施設に入った母を平日は父が毎日見舞い、土日は光子が見舞いました。

この日は、17 歳で小児喘息で旅立った末っ子の京子のお墓にみんなで行ってきたことも話すと、それも喜びました。父は 20 年間、毎朝片道 30 分掛けて歩いてお墓に通い、涙を流して 1 日を始めるのが日課でした。

12 月 31 日、医師が容体を懸念し、延命治療はしないとの意思を再確認されました。父はうなずきながらも、光子に「おっかないな」と言ったそ



喪主あいさつで「キリストの福音・永遠のいのちの希望」等、分かち合えました（1月11日・筆者）

うです。光子は「大丈夫。効果的な治療がされるから、また元気になるよ」と伝えたそうです。

父に「イエス様のことを信じて、新しい力をもらって桜ヶ丘（実家）に早く帰ろう!」と言うと、「うんうん」と言いました。「僕にとって最高のお父さんだよ」と伝えました。

1 月 1 日、私の顔を見て父は涙を流しました。初めてだなと思い、うれしかったですが、少し驚きました。昨日と違い、穏やかな笑顔となり、もう大丈夫かなと安心しました。

1 月 5 日、光子から「症状がいつもと違う。帰ってきて」とのことで東京から弘前に戻る準備をしましたが、1 時間後、光子から「お父さん、逝っちゃだめって言ったのに… お兄ちゃん帰ってくるよって言ったのに…」と涙の連絡でした。

父は使命をなし遂げたのだと思います。今は、人への愛と感謝に溢れていた父にならい、私たちもささやかでも誰かの役に立てるようになり、使命をまっとうできるように努力していければと

思っています。

翌日、伯母が「寛夫君の挨拶、とっても良かったよ。(息子に)式にたくさん来たでしょう?と聞かれて、『たくさん来た。でもそれより、寛夫君の挨拶が良かった』と伝えたよ」と言ってもらいました。いとこが言いました。「お父さんに御礼を言えて良かったな一。俺は何にも言えずに、逝ってしまったから」

お葬式の御礼の挨拶 — 天国につながる希望について

翌日のお葬式の挨拶では、父と話し合った天国につながる希望について話す知恵が与えられました。以下、抜粋です。

父とは永遠のいのち、天国につながる希望について、よく話し合ってきました。私がクリスチャンになって以来ですので40年近くになります。

17歳で神様に召された末っ子の京子は、10歳の時、テレビを見て、父に「教会に行きたい」と言ったそうです。父が元寺町の教会を教え、その教会に通い、イエス様を信じました。その教会は、父が研究してきた郷土の人物の一人、本田庸一らの教会で、私は父の研究の助手として一緒に礼拝に出たことがあります。

父と話し合った希望のメッセージは以下の通りです。「私たち全員のことを愛してやまない神は、全員に、その人でなければならない使命を与えている。でも私も含めて人はみな、自己中心等の罪を持っている。愛の神様であるけれど、正義の神様であり、天国もあるが、地獄もある。神様は誰一人、地獄に行くことを願わず、このキリストを信じるだけで、罪は赦され、神様との関係は回復し、神と共に、本来の使命に生き、天国への永遠のいのちが与えられる」

「お京は天国で待ってるよ」。父は黙って聞いていました。

父の親友は、父は「正義の人。でも融通が利かないわけではない」とおっしゃってくださいました。不当、理不尽な扱い、権力者や強い者が虐げることになる。

人生で一度だけですが、小学校6年生の時、鼻血が出るほどぶん殴られたことがあります。僕が母を理不尽にののしったのが理由です。自分は父に反発して部屋のふすまに段ボールを積み上げて籠城しましたが、9時間して、母のうどんを食べ、父に詫言いました。自分が悪いとわかっていたので、それは良き思い出でした。父は頼もしく優しい父でした。

父は今、天国で京子と一緒に喜んでいるでしょう。永遠に喜んでいるでしょう。それは聖書が約束した希望です。また皆さんに支えられて歩んだ

父、そしてその父を人生の先達として育まれた私の希望です。

いつかまた、父と京子と天国で再会できる希望を胸に抱き、私たちも父のように人に尽くせるよう歩んでいきます。

父母を敬いなさい (出エジプト 20:12)

お葬式後の法要で、「キリストの話、よかった。ありがと



孫たちが皆、参列できました。長男・真祈史はバージニアから32時間、エミリはLAに戻って3日後に再来日となりました

うございました」「なんか素敵だった。こんな法要は初めてだった」と、参列いただいた何人かの方が話してくれました。

介護施設の母も参列できて感謝でした。すべてを終え、改めて「父母を敬いなさい」との聖句をかみしめる日々です。また、人生を捧げて父母を介護してくれた光子に、神様の支えと報い、祝福があることを祈っています。引き続き、お祈りいただければ感謝です（挨拶の全文、父についての新聞記事等はチア HP に掲載させていただきました）。

2020 年、今年もイエス様の恵みとあわれみの中、聖霊の力をいただき、強い目的に向かっての努力を重ねていければと思っています。

CSS からの報告

昨年の出来事で、一つ、残念な報告があります。

チア・サポートスクール（CSS）は、8 年あまり継続し、微力ながらも、ホームスクーラー家族に貢献したとの声もいただき、とても感謝でしたが、昨春、閉校とさせていただきました。CSS は、神様の恵みの中で、一つの使命・役割を果たさせていただいたと思います。今は役割を終え、チアに召されている本体に集中しながら、次のステージに進んでいく時と思っています。在籍する保護者の皆さんには保護者会をもって、詳しい経緯や今後についてお伝えし、話し合いの時を持ちました。

昨年 11 月中旬、全国のチアの皆さんにも伝えておく必要があるのではとのサジェスチョンをいただき、それに私も同感で、白馬セミナーとこの場でお伝えさせていただくことにしました。チアとしては、さらに次のステージで、神様からの召しに一層邁進し、ホームスクーラーの皆さんへのサポートに励んでいければと思っています。お祈りのほどよろしくお願いします。

聖書に立ち返るムーブメント
—創造主は教育の責任を国ではなく、親に委ねた。学校任せではない

21 年目に向かう今、聖書が教える通り、親が責任者となり、多くの助けを得ながらキリストを見

上げての子育ての歩み、いよいよ収穫に向かっていきますね。

さらに良き環境づくりのために、今年は今のところ、5 つの企画を考えています。

第一弾「青木誠一氏の誰でも早く走れる教室」

3 月 25 日（水）、府中市民陸上競技場（新日程・会場になっています。詳細 13-15 ページ）。保護者の皆さんも含め、年齢を問わず、どなたでも大歓迎です！

世界記録続々更新中のナイキ厚底シューズ（ヴァイパーフライ）の理念を、30 年前から提言していた青木コーチのセミナーです。青木コーチはロンドン、リオ・オリンピック、去年の世界陸上の十種競技の代表選手、東京オリンピック出場を確実にしている右代啓祐選手のコーチを務めています。

青木コーチの理念と重なるナイキのシューズは、マラソン世界記録、日本記録を塗り替え、東京オリンピックマラソン代表 4 選手のうち 3 選手が着用、今年の箱根駅伝でも 85% の選手が用い、その後の都道府県駅伝でも新記録が続出し、ニュースでは使用禁止の可能性すら報道されました。日本の報道各社は「ナイキ厚底シューズ」と報じてますが、このシューズの本質をつかんでいない報道です。厚底シューズはアシックスでもミズノでもオニツカでも、どこでもありました。今回のナイキのヴァイパーは、青木コーチが力説する、「アフリカ選手らの走法のように、自然に『つま先走法』、『歩幅増走法』ができるように厚底・傾斜が設計されている」シューズで、これによって日本人選手も含めて、次々と新記録を量産している理由になっているわけです。

この「つま先走法」「歩幅増走法」については、チア・ホームページ「誰でも早く走れるセミナー」または、ニュースレター 175 号、176 号巻頭言記事を参照ください。

幼児も、小学生もティーンも大人も高齢者も「走力アップ」確実です。走ることが楽しくなります。

ジョセフ（11）は約 1 年前から教えてもらい、大きな効果が出ました。一昨年夏、野球チームに入団したジョセフは、最初、足は遅い方でした。

それまでは、陸上競技は、年に 1 度のチア・オ



青木誠一コーチ (75) のつま先着地 (推進力) & 歩幅増走法。
(1月29日撮影)

「チーターはライオンより早い！小さくても大きい人より早く走れる」「環境・技術を変えれば、誰でも早く走れます！」

リンピック以外、日常生活にはありませんでした。走り方もわかっていませんでした。

それで早く走るための陸上の本を50冊ほど読んで、私も研究し、1年前、「つま先走法」「歩幅増走法」と出会いました。訓練後、2カ月してジョセフはチームの同学年では先頭グループになりました。

その後、新チームに移籍。昨夏、チームで足の早い6年生の副キャプテンA君が関心を持ち、「ジョセフ、100m競争しよう。ハンディをつけてやるか」「ハンディいらない」と競争したら、ぎりぎりA君が勝ったとのこと。驚いたA君が「ハンディをつけて、もう一度やろう」と言ってジョセフに2-3mハンディをつけて走ったら、ジョセフが勝ったとのこと。

12月のチーム対抗運動会では、リレーや玉送り競争で、ジョセフがスターターとアンカーを任されるようになりました。100m走では3位で賞状

でした。

ポイントは、「青木コーチの走法は、誰でも必ず早くなる」、理にかなった走法ということです。20年前、青木社長が大手スポーツメーカーの部長さんに話したものの、鼻で笑われたとのことでした。

でも今は、その理念をサポートするために作られたシューズが、飛ぶように売られています。

「私はまったく走れないので、私にはちょっと」というホームスクーラーのお母さんから電話をいただき、話しました。

「そのような方のためでもありますよ。青木社長は、誰でも早くなる！と確信されています。また、その走法をお持ちです。お母さんの頑張る姿は、きっと子どもたちへの励ましになりますよ」。そのお母さんは、参加を決断くださいました。

才能ではなく、環境・正しい走法で誰でも早くなる！

「うちの子は、運動は自信ないです。きっと才能のある方が早く走るのでしょうね」との声もいただきました。青木コーチはおっしゃいます。「違います。誰でも早くなります。才能ではなく、環境です。受精した時は誰もがほぼ同じ能力との研究

結果があります。胎内での10カ月の過ごし方で少し差ができ、その後、4年ぐらいで活発な子はますます俊敏になります。15～16才ぐらいのゴールデンエイジで運動環境にあれば、さらに伸びます。中高年でも変わります。逆に言えば、良い環境に置き、今からでも正しい走り方の環境に置けば、誰でも伸びるのです！」

なぜ、全員早くなるかは、当日のセミナーで体感ください。当日、コーチング前とコーチング後に、50メートル走を計測します。きっと楽しんでいただけたと思います。

第二弾「書道&絵画教室」

4月14日(火)、オリンピックセンター 10時30分～15時30分の予定です。

午前中の書道教室の講師は、チア設立当初から

お世話になっています福治友輝先生（八丁習字クラブ代表）。チア・コンベンションでの聖句書道掛け軸展、また秋の「みことば習字コンクール（八丁習字クラブ主催・白馬セミナーでも展示）」の応募作品に挑戦します。

午後からは絵画教室。ホームスクーラー OG の中村光美（ひろみ）さんです。光美さんは、美術系大学の最難関とされる、東京芸大美術学部絵画科の4年生。油画を専攻されています。チア・サマーキャンプ等では、女子ながら高さ 25m を超え



チア発足当初からホームスクーラー達に書道を教えてこられた福治友輝先生

る岩から滝つぼ目がけてジャンプする勇敢な姿を見せてくれ、今も忘れられません（現在は、トップからのジャンプは禁止で、20m 以下の岩からのジャンプに絞っています。トップから跳べた最後の世代です）。バイブルアート・ミニストーリーにも参加され、チアの聖書絵画コンクールにも出展し、チア・につぽん最優秀作品賞に輝いています。

当日は、今年のチア・コンベンション絵画コンクール作品にみんなで挑戦し、指導を受けられればと思っています。



中村光美さん（ホームスクーラー OG/東京芸大美術学部絵画科4年生）

第三弾！チア・コンベンション

9.11 のアメリカン航空を操縦する予定だったスティーブ・シェイブナー夫妻を迎えて

チア・コンベンションは、6月19日、20日が大阪・羽衣ユースセンター、26日、27日が東京・オリンピックセンターです。今年は、スティーブ・シェイブナー氏ご夫妻をお迎えします。元米国海軍パイロット、またアメリカン航空パイロットで元牧師、海軍のスクールで1万人以上の兵士たちに講義をし、現在は、「キャラクター・ヘルスコポレーション」社長、そして8人の子どものホームスクーラーです。奥さんのメーガンさんは、誕生して2日後に養子家族に引き取られ、学生時代に知り合ったスティーブさんと結婚して約30年。

20数年かけて8人の子どもたちをホームスクーリングで育てています。

2001年9月11日のLA行きのアメリカン航空11便のパイロットとしてスティーブさんは登録。

メーガンさんはスティーブさんのワイシャツにアイロンをかけて準備します。でも、直前に業務変更で別なパイロットと代わりますが、その飛行機はハイジャックされ、国連ビルに激突することとなります。スティーブさんは、「イエス様のために生き、伝道と弟子訓練のために生きる」と、

かつて自ら記した誓約書を思い出し、心に刻みます。

その状況をメーガンさんが「私の席——あるパイロットの9月10日と11日のストーリー」として出版、ユーチューブでは「In My Seat」とのインタビュービデオにまとめられ、290万人が視聴。

メーガンさんは「健全な人格を育てるためのホームスクーリングガイド」ほか著書多数です。

そのような体験や著書、メッセージで全米で用いられているシェイブナー夫妻のメッセージを始め、全国各地からも講師を迎え、大変楽しみです。

ぜひ、ご参加くださり、励ましとチャレンジを受けていただければと思います。

秋はチア・オリンピック&白馬セミナー

秋には今年もチア・オリンピック、白馬セミナーも開催予定です。白馬セミナーには、HSLDA マイク・ドネリー弁護士夫妻らの再来日も決定しています。

泉のわく所（詩篇 84:6）

ホームスクーラーの皆さんたちと神様の栄光を現わす歩みができ、感謝です。今は小さな水滴か

らの雪解け水でも、少しずつ水滴は運ばれています。神様の恵みとあわれみと聖霊の力で、その後、春の日差しに輝き、ほとばしるせせらぎとなり、新緑の溪流となり、そして岩を砕く激流となりますね。さらに神様が良しとしてくだされば、試練を経たたくさんの支流と合流し、たたずむ山脈からの悠久の大河となり、世界を支えて主の輝きと福音を伝えるいのちの海となって、多くの人々の人生のために用いられていく、そのようなホームスクーリング・ムーブメントとなっていくことを願っています。「なんと幸いなことでしょう。その力が、あなたにあり、その心の中にシオンへの大路のある人は。彼らは涙の谷を過ぎるときも、そこを泉のわく所とします。初めの雨もまたそこを祝福でおおいます。彼らは、力から力へと進み、シオンにおいて、神の御前に現れます」（詩篇 84:5～7）

水滴から、海へ。多くの可能性を持った次世代の子どもたち、その家族に、神様の祝福が増し加えられていくことを心から祈っています。

感謝しつつ

稲葉 寛夫



永遠の栄光に目を向けて（白馬セミナーにて）